

第1回小牧市教員の多忙化解消推進委員会会議録

1 開催日時	令和3年7月15日（木） 午後3時00分から
2 開催場所	小牧市役所東庁舎 本会議用控室
3 出席	大藪委員長、細副委員長、前原委員、石川委員、光部委員、 梶田委員、近藤委員、江本委員、山口委員、高橋委員
4 欠席	福田委員
5 事務局	■学校教育課 堀田課長、加藤管理指導主事、大久保指導主事、 安部係長 ■教育総務課 小川課長
6 傍聴者	0人
7 議題	(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について (2) 部活動改革の課題について (3) その他

<開会 午後3時00分>

1 開会

(堀田課長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、「第1回小牧市教員の多忙化解消推進委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます。小牧市教育委員会学校教育課長の堀田です。
よろしくお願いします。

<資料確認>

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。

・次第

・推進委員会委員名簿

・推進委員会設置要綱

- ・小牧市教員の多忙化解消プラン
- ・小牧市教員の多忙化解消プラン進捗状況
- ・学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要
- ・座席表でございます。

不足などがございましたら、お申し出ください。

傍聴について

続きまして会議の公開について、本委員会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。

そのため、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。なお、本日の傍聴はございませんでしたのでよろしくをお願いします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。開会にあたりまして、加藤学校教育課管理指導主事よりあいさつを申し上げます。

(1) あいさつ

(加藤統括指導主事)

学校教育課の加藤でございます。よろしくお願いいたします。先ほどもお話しがりましたが、令和元年度に小牧市教員の多忙化解消プランを策定いたしまして、昨年度から小牧市教員の多忙化解消推進委員会と会の名前の方も変えました。それぞれの進捗状況などを確認していくとともに、今後どのような政策、施策をしていくのが一番よいのか話し合いの方を進めていただく会議ということで進めさせていただいております。なかなか小中学校ともに、多忙化が解消されません。文科省の方は、令和5年から中学校の土日の部活動を地域へなど、様々なプランは出してくるのですが、それに対して学校現場がなかなか追いついていけない、実態が伴わないというところもありますので、そうしたところも加えながら様々なご意見いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。本日につきましては、小中学校の校長先生方、また教員代表ということで出席いただいている方もみえますので、学校の状況等を聞きたい部分もあれば質問等していただければと思います。また、前原先生をはじめ、地域の代表ということで学校を外から見たご意見もいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。短い時間ではありますが、有意義な会となりますようよろしくお願いいたします。

(2) 委員の委嘱について

(堀田課長)

続きまして、「委員の委嘱について」であります。

皆様方におかれましては、ご多忙の中にもかかわらず、委員就任についてご快諾賜りまして、誠にありがとうございました。

委嘱状につきましては、本来であればお一人ずつにお渡しするのが本意でございますが、時間の関係上、大変恐縮ではございますが、あらかじめ机上にご用意させていただきましたので、よろしくお願いします。

それでは、大変恐縮でございますが、私の方から委員の皆様をご紹介させていただきます。

名古屋経済大学	前原 宏一 様
区長会連合会長	細 敏雄 様
小牧市PTA連絡協議会	石川 雄一 様
地域コーディネーター	光部 明美 様
小牧中学校長	近藤 健一 様
三ツ渕小学校長	梶田 誠二 様
米野小学校長	大藪 徹也 様
岩崎中学校教頭	江本 克也 様
篠岡小学校教諭	山口 祐樹 様
小牧原小学校教諭	高橋 由佳 様

なお、小牧市PTA連絡協議会 福田波様につきましては、本日は所要によりご欠席でございますのでよろしくお願いします。

続きまして事務局の紹介をさせていただきます。

教育総務課	小川課長
学校教育課	加藤管理指導主事
学校教育課	大久保指導主事
学校教育課	安部係長

私、学校教育課長の堀田です。よろしくお願いします。

(3) 会議の運営等について

(堀田課長)

続きまして、会議の運営等について、担当よりご説明いたします。

(大久保指導主事)

恐れ入れますが、資料の「小牧市教員の多忙化解消推進委員会設置要綱」をご覧ください。

まずは、第1条及第2条をご覧ください。この委員会は、昨年度策定された資料2「小牧市教員の多忙化解消プラン」の進捗管理を行い、その見直しや多忙化を解消するための具体的な取組について検討し、教員の多忙化の解消を図るために設置するものでございます。

第3条、組織等でございますが、この委員会は、学識経験者、学校関係者、地域住民の代表者、児童生徒の保護者、地域コーディネーターの代表者等、11人以内の委員で組織し、任期は今年度中でございます。

第4条、この会には、委員長、副委員長を置き、委員の互選で定めるとしておりますので、後ほど委員の皆様にご審議をお願いします。

第5条、会議は、委員長により招集され、議事につきましては、委員長に取り回しをお願いするものであります。

以下につきましては、ご覧おきください。よろしくお願いします。

(堀田課長)

会議の運営等について、事務局よりご説明申し上げましたが、ご質問があればお受けいたします。よろしいですか。

2 委員長、副委員長選出について

(堀田課長)

それでは、次第の2、委員長、副委員長の推薦をお願いしたいと思います。

先ほどご説明申し上げましたが、委員長、副委員長の選任につきましては、委員の互選により定めるとされております。

恐れ入りますが、委員の皆様より、立候補あるいはご推薦をいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

(近藤委員)

委員長には、昨年度も委員を務めてみえた校長会の代表の米野小学校校長の大藪校長を委員長、そして副委員長ですけれども、こちらも小牧市の区長会の連合会長で地域住民の代表を務めておっていただきます細様に副委員長を推したいと思います。

(堀田課長)

今、近藤委員より委員長には大藪委員、副委員長には細委員という発言がありましたが、いかがでしょうか。

「異議なし」の声あり

皆様のご異議もないということですので、委員長は大藪委員、副委員長は細委員にお願いしたいと思います。

それでは、大藪委員におかれましては、大変恐縮でございますが、委員長席へ移動願います。

「席移動」

それでは、改めまして、委員長にご就任いただきました大藪委員にごあいさつをいただきたいと思います。

大藪委員長よろしくお願いします。

(委員長)

ただいまご承認いただきました米野小学校の大藪です。委員長として務まるかどうかはわかりませんが、みなさんのお考えもいただきながら、この会で一步でも現場の多忙化解消を進めてまいりたいと思いますので、忌憚のないご意見をいただき、集約等を事務局にしていいただいて、少しでも現場の多忙化解消につなげていくことができればと思っております。よろしくお願いいたします。

(堀田課長)

ありがとうございました。ここからの議事の取り回しにつきましては、委員長にお願いしたいと思います。委員長よろしくお願いします。

3 議題

(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について

(委員長)

それでは、議題(1)小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について、事務局より説明を求めます。

＜事務局より「小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況」の説明＞

(委員長)

ありがとうございます。

事務局から今説明がありました。多忙化解消プランの進捗状況を踏まえた状況だということであります。

この進捗状況を見ていただきまして、各学校でどのような進捗状況にあるのか、あるいは課題や意見がありましたら、教えていただけるとありがたいです。どうでしょうか。プランに基づいて進捗が進んでいるのでしょうか。部活の面だけはここではなく、

次の（２）のところで求めていきたいと思いますので、それ以外のところでお願いします。

（前原委員）

教えてほしいことがあるのですが。

（委員長）

前原委員、お願いします。

（前原委員）

（１）の学校閉校日の設定、短期の目標ということで、設定済み、毎年実施と書いてあり、その下の電話の受信を控える時間の設定は、設定済みで、具体的に書いてあるのですが、具体的に学校閉校日がどのようになっているか教えていただきたいということと、設定済みで終わっているということは、もう増やしていく予定はないということなののでしょうか。その２点をお願いします。

（事務局）

学校閉校日の設定についてのご質問ですが、まず、今年度につきましては８月１０日から８月１６日、この７日間を学校閉校日とさせていただいております。

基本的には、行事を組まない期間と合わせて設定させていただいております。ですので、日程をこれ以上延ばすかどうかというところでいいますと、今のところは延ばすことは考えてはおりません。

内容ですが、基本的には、電話も朝から留守番電話、学校に連絡等を入れても応答はしませんということで、休日と同じ対応をさせていただいております。

ただし、学校閉校日は休日ではありませんので、なるべくそこで先生方に年次休暇を取っていただくという形にはなっています。ですが、どうしてもそこで出勤したいという方は出勤されています。ですが、対応は休日と同じようにさせていただきますということであります。

（前原委員）

日にちはわかりましたが、以前はお盆の頃に学校で行事を組まない期間にも当番が置かれていましたが、閉校日には先生たちの当番も置かないということですか。それから年末年始の休暇は、これも学校閉校日ですか。確認です。

（事務局）

今のご質問に対してですが、学校閉校日は日直を置いておりません。休日と同じ対応をさせていただくということで、当番は置いておりません。

また、年末年始のところは完全な休暇となっておりますので、学校閉校日とは扱いが違っております。

すみません、電話の設定の欄に設定済みと書いてありますが、設定時間については今後も見直しを行っていかうと考えております。これでもう決定というわけではなく、今後さらに見直しを検討していかうと考えております。

(前原委員)

ありがとうございました。

(委員長)

質問でもよいですし、進捗状況はどうでしょうか。特に、事務局から説明があった部分についてどうでしょうか。それぞれの各学校での様子をお話いただくと、今日はPTAの代表の方、地域コーディネーターの方や区長会の代表の方もおみえになっておりますので、知っていただけたと思います。現場の状況はどうでしょうか。

山口委員、お願いします。

(山口委員)

篠岡小学校に勤めております、山口といいます。

学校の始業及び終業時刻の設定についてですが、本校も見直しを行っていて、管理職の先生方による配慮を感じます。

私は今年転勤してきたので、昨年度までと比べてどうということがなかなか言いにくい部分がありますが、例えば門を開ける時刻ですとか、生徒の登校時刻ですとか、そういったところで配慮していただいているな、見直しをしていただいているなということを感じます。

また、電話の受信を控える時間の設定についてですが、電話の受信を控える時間を設定することによって、私たちの意識も変わってきているのかなということを感じます。何時になっても保護者の方に連絡を取ればよいというような考え方ではなく、この時間までに仕事を終わらすことが必要だと、私たちの意識改革にも一役買っているのではないかと感じています。

(委員長)

山口委員から、学校での進捗状況について幾つかお話がありましたが、ほかの学校はどうでしょうか。

梶田委員、お願いします。

(梶田委員)

本校でいえば、まず始業時刻、終業時刻という面では、私が赴任する前はかなり見直しを図り、保護者に提案をして、何とか勤務時間との整合性を図ろうということで動いたそうです。しかし、保護者のお立場からすると、特に小学校の低学年、子供を残して親が先に仕事に出るというのはやはり不可能であるということで、そのあたり

で勤務時間との整合性が、今10分ぐらい取れていませんが、以前よりは改善を図ることができています。この課題については保護者の方にも、特に小学校はご理解をいただかなければいけないこともあるので、努力目標ということで取り組んでいきたいと思います。

それから定時退校日ですが、週に1度という学校も増えてきたということですが、本校は週1はなかなか難しく、月1やればいいのかというぐらいです。やはり小さな学校ですので、1人の職員が複数校務分掌も持っておりますし、授業の準備等々は若い教員ほど時間がかかっていますので、かえって週に1回の定時退校日を設ければ、そのしわ寄せが前後の曜日に行ってしまう部分があり、なかなかこれは難しいなというのが現状です。

(委員長)

ありがとうございます。

小学校の事例というか、進捗状況をお話いただきましたが、小学校の教員代表の方もおみえになっておりますので、そのところはどうでしょうか。小牧原小学校の高橋委員。

(高橋委員)

私は今1年生の担任なのですが、朝学校に行き渋る児童が数名いまして。7時50分ぐらいになると登校してくるものですから、迎えに行き一緒に来るとことがしばらく続いておりました。ですから、ふだんより少し早目に出勤し、迎えに行くということがありました。

本校は、今年度から終業時刻のところでチャイムを鳴らすようになりまして、そのせいか、一部の教員にはなるのですが、チャイムが鳴ったらそろそろ終わりの準備をしようかなという意識はできるようになってきていると思います。ですから、早く帰る先生方が多くなってきたとは思います。

(委員長)

中学校はどうでしょうか。同じような終業時刻、あるいは退校時刻。子供の登校時刻と勤務開始時刻が重なっているところが多いと思うのですがよろしかったですか、問題はなく進んでいると。

(近藤委員)

小牧中学校の近藤です。

中学校は、朝の登校時刻については比較的小学校よりは勤務時刻に近づけることはやりやすい状況にあるで、以前に比べれば子供たちの登校時刻はやや遅くなり、子供たちが校舎の中に入る時刻は、基本教員の勤務開始時刻に近い時刻になっています。

ただ、実際問題として、例えば中学生は通学団で登校するわけではないので、道を広がって歩いていて危ないだとか、マスクせずに大声でしゃべっているだとか、様々な指摘を地域の方からお受けするので、結局その指導をするために出ようとするとならばもう勤務開始時刻前になってしまいます。

文部科学省の見解では、登下校は学校の行う仕事ではないと仕分けされていましたが、現実的に、じゃあ地域、保護者の皆さんからそのように受け止められているかというところではないので、いまだにその部分は学校が担わなければいけない、難しいところだなと思います。

それから中学校は、部活については随分縮小されてきたとはいいいながら、やはりなくなっているわけではないので、ほぼほぼ夕方方の休憩時間は中学校の教員は取れていないです。そして、昼休憩はもちろん取れるわけではないので、ぶっ通しで教員が勤務しているという状態は変わりません。

もう1つ、小牧は昔からどこの中学校も特別活動が非常に盛んだったという経緯があります。昔、校内暴力が多かった我々が若かった頃、特別活動で学校を立て直すという色合いが結構強かったものですから、今も子供たちの主体的な取組を中心にした特別活動がどこの学校も盛んだと思います。悪いことではないのですが、それをやるためにはやはり膨大な時間が必要です。

自分がこの4月に中学校へ久々に戻ってきて在校時間を調べてみたところ、やっぱり100時間を超える教職員が結構おり、80時間を超える教職員は本当にたくさんいる状況で、この状況を何とかしなければいけないなとは思っているのですが、保護者、地域住民の方々のご理解というだけではなく、教職員側も、子供たちがこんなに主体的に頑張っているのだからとか、教員もやった分だけの達成感があるというような、今まで行ってきた教育活動に対してのこだわりが結構あり、なかなかメスを入れづらい状況にあります。

だから、これをどのようにして文科省がいう教員の本来業務である学習指導や授業研究という部分に特化していくような方向に向けていくかというのが我々管理職の仕事なのかなとか思いながら、今いろいろと考えているところです。

(委員長)

ありがとうございます。

岩崎中学校の江本委員、お願いします。

(江本委員)

近藤先生からもありましたが、昔は行事がすごく盛んで、それこそ朝7時半からクラスを集めてということもよくあったのですが、私が岩崎中学校へ赴任した頃はやは

りそのあたりを見直そうということになりました。特に、朝保育園だとか子供たちの送り迎えをしなければいけない女性の先生だとか、あと短時間勤務を取っているような先生が、ほかの学級はすごくやっているのにうちの学級はということもあり、そういうところからだんだん朝早くからはやめようということになりました。

逆に、どうしてもやるのであれば、帰りの会を少し短縮して部活までの間に時間を特別に取って、全クラスが平等に取り組めるような時間を生み出そうとか、そういうことをやっていました。昔なら、自分は行事大好きだったのでやれるだけやっていたのですが、様々な勤務形態と状況に応じて学校を変えていこうという努力を岩崎中学校へ赴任させていただいたときはすごく感じました。

あと、それこそ自分が生徒指導主事のときは8時には門に立ってということもありましたが、今はすごくゆっくりと子供たちが登校できている状況があるので、本当にいいことだなと思います。

1つ自分が思うのは、メンタルヘルスについてです。今年教頭をやらせていただいて、たまたま実施率は今年100%ではあったのですが、選択肢の選び方次第で誰が見ても結果が見えてしまうような内容がずっと変わらず続いています。

以前ある企業のストレスチェックをテレビで見たのですが、質問紙に何気なく答えていくだけで、自分ではストレスはたまっていないと思っていたのに思わぬ結果が出て、コロナ禍で無意識のうちにストレスがたまっていることが判明するという、そういう心理テスト的なストレスチェックもあります。

僕は、このストレスチェック100%の取組も大切だけれど、やはり自分が気づいていないうちにストレスがたまっていることに気づけるような、内容も少し新しくしていくことも大切なのではないかと思います。どうしてだろうとか、知らない自分に気づけることもいいのではないかと。

それから、結局ストレスチェックを行ってもほとんどみんなたまっていないという結果で終わってしまっているという懸念もあって、もう少し本当の意味でのストレスチェックに近づけられるといいなと思います。ストレスというのはおそらく自分が気づかないところに本当はたまっているものだと思うので、何かそういう検査ができるといいなと自分では思っています。

(委員長)

ありがとうございます。

今の各小中学校からのお話を聞いていただいて、もし何かご意見がある方がみえましたらお願いしたいと思います。よろしかったですか。おおむねやってみえることにつきましてはご理解いただいているということによろしかったでしょうか。

前原委員、お願いします。

(前原委員)

今のストレスチェックとの絡みも関係すると思うのですが、前の在校時間調査も記載するのはあくまでも在校時間ですよ、調査は。勤務時間ではないではないですか。在校時間で、それこそ同じ同僚同士で悩みを打ち明け合ったり、先輩からアドバイス、叱咤激励してもらったり、後輩の先生が先輩の先生にボールを投げて、返してもらいながら自分の力量を高めていくという時間。アドバイスをもらって、よし頑張ろうというエネルギーをもらいながら次に備えていくという点でいうと、ストレス解消にはある程度の在校時間は必要かなという側面もあるのではないかと思うわけです。

中学校は今年の4月から新学習指導要領が完全実施されました。小学校は、コロナ禍で4月から臨時休校が続いて、思うように新学習指導要領が1学期の4月からスタートできませんでした。先ほど特活の話でもでてきたのですが、子供たちが自ら学び、学び合っていく授業を作りなさいと文科省は言っているわけです。簡単そうに見えますが、昔ながらの授業のほうがはるかに簡単です。先生にとっては。つまり、子供たちに学び合わせていく授業を作り上げていくためには、その前に相当な時間が必要なわけです。

そういう点から考えると、この新学習指導要領がスタートして、中学校のほうは小学校ほど大変ではないかもしれませんが、小中学校の先生方が疲弊していないといいなと思うわけです。一方で、コロナの消毒をしなければいけない、子供たちの健康チェックもしなければならぬ。以前聞いたときには、保護者の方に協力してもらって掃除を手伝ってもらっているという学校もありましたが、このようにどんどん外部の方に協力をお願いできているのでしょうか。それともやはりコロナの影響でそれは難しいのでしょうか。

(委員長)

難しい問題が出ておりましたけれども、小中学校としましては、子供の安全・安心というのが最も大事なことです、何を置いてもその部分は欠くことができないと思っております。どの学校もそのように進めてみえると思います。外部への依頼や委託というのはなかなか難しいです。このコロナ禍で誰に頼んだらよいのかということがありますので、ご理解いただける方だけにはなるとは思いますけれども、各現場の先生方は頑張っております。

もしそのような外部の方ということになりますと、ボランティアでは難しい部分もあると思いますので、費用の問題も発生するかもしれませんから、これは課題ということで、ご意見ということで賜るということによろしかったですかね。

(前原委員)

はい。それに関係してもう一つお願いします。

現在私は名古屋経済大学で働いており、以前は小牧の小学校の現場、中学校の現場で一緒に働かせていただいていたのですが、報酬関係なく頑張ってくれてくれるのは学生なんですよ。

名古屋経済大学は前身が市邨短大ですから、幼稚園の先生、小学校の先生、保育士になろうという生徒がいますので、教育実習でお世話になっておきながら、教育実習が終わったら知らん顔はだめだろうということを指導しています。やはりお世話になったらその学校に貢献しなければだめだろうということで、一部の学生はそのまま学習チューターになったり、保育園の支援に行ったりしています。そういうことも遠慮なく言ってください。大藪先生はよく学習チューターはいませんかと言われていましたけど。そういう動きはありませんか、文教とかあるので。

(委員長)

ありがたい話を頂きました。そういうことで、外部の方ということで学生ということをお勧めいただきましたので、名古屋経済大学の前原委員までお願いできたらと思います。ありがとうございます。

(前原委員)

ちゃんとPCR検査を行ってから小中学校へ送りたいと思います。また、小学校の先生を目指したいという生徒しか送りません。

(大藪委員長)

ありがとうございます。

ここまで進めてまいりましたが、進捗状況ということでわかっていただいたと思います。この進捗状況の中でも、中学校の部活動というのが大きなネックになっているということを伺っており、また、文科省からも、これから多忙化解消も含めて進めていくといいという提言もなされております。(2)に移らせていただきたいと思います。ですが、よろしかったでしょうか。

(2) 部活動改革の課題について

(委員長)

それでは、事務局よろしく願いいたします。

<事務局より「学校働き方改革を踏まえた部活動改革 概要」の説明>

(委員長)

ありがとうございます。

今の説明を聞かれて、質問のある方おみえになりますか。前原委員。

(前原委員)

指導者についてはわかったのですが、各中学校の生徒たちは、この部活動への参加は任意ですか、それとも強制参加ですか。中学校現場はどうなんでしょうか。

(委員長)

小牧の中学校の部活動参加は任意なのか、それとも半強制なのかということですよ。それによっても変わってくることがあるということでしょうか。

(近藤委員)

おそらく学校によって違うと思います。小牧中は任意で、強制ではありませんが、部活数が非常に多いので、ほぼほぼ何かしら入りたい部活が見つかって入っている子がほとんどです。

(委員長)

小牧中の話が出ましたが、ほかはどうですか。

(江本委員)

クラブチームなど外で活動している子は別として、基本的には原則、岩崎中もほぼほぼ全員かなと思いますけれども。

(委員長)

小学校勤務の先生もみえますけれども、どうですか。中学校の勤務が長い方もおみえになるので、昔勤務した学校ではどうでしたか。

(山口委員)

今年3月まで光ヶ丘中学校に勤務していました。

任意の参加でした。ただ、8割9割の生徒が参加している状況です。

(委員長)

北中はどうでしょうか。

(梶田委員)

北中は全員参加です。必ずどこかの部活に入ります。

(前原委員)

この前、小牧に住んでいる知人の情報で、中学校にはない部活がありますね。例えば新体操や体操など、重量挙げはないと思いますが、そういう種目で自分は力量を高めていきたいという子がいた場合は、それを優先させてもらえるシステムになっているのでしょうか。

(近藤委員)

任意の部活動なので、そちらへ行くなら行ってもいいですし、その子たちが中小体連の大会に出るのであれば、当然学校の誰かが引率者として大会には帯同します。それはおそらくどの学校も同じだと思います。

(前原委員)

認められているということですね。

ありがとうございます。

(委員長)

今ご質問ありましたが、今日この中学校の部活動に関する問題点をそれぞれ上げていただいて、これからそれをもとにいろいろ検討をしていきたいという事務局のご説明もありました。

ここには様々な問題が絡んでいると思います。それぞれの中学校で、ここが今のところ問題かなということなどを言うただけると、それをもとにして今後検討していくことをやっていただけたということでもありますので、忌憚のないご意見を頂きたいのですが、よろしいでしょうか。

(近藤委員)

仕方がないことだと思っているのを前提として聞いていただきたいのですが、日頃の部活動の時間や活動日というのは、市である程度統一して、努力をしていただいて、以前に比べれば随分抑えられるようになってきたかなと思います。

これは全国大会からのつながりがあるので難しいのですが、大会がすごく前倒しをされるようになってきています。実は、この7月から市内大会が始まったのですが、学校があるときなので土日に大会を組まざるを得ないという現実があり、正直、7月に入ってから土日が全部部活の大会で潰れています。明後日からはもうすぐに愛日大会が始まり、愛日大会が終わるとすぐに県大会があるということで、勝ち残っている部活の先生たちは、応援や視察に回っている我々も含めて、7月に入ってから一日も休みが取れていない状況が続いています。もちろん部活なので、一生懸命指導していれば、結果が出れば喜んでいるし充実した顔をしています。しかし、疲れていないのかというと、やはりみんな疲れた顔をしているんですね。

以前は夏休みに入った最初の2日間で市内大会というスタートで、愛日大会などはほとんど平日に開かれていました。あの日程であれば、少なくとも土日の体を休める時間は確保できるのではと、今の中学校のスケジュールを見ていて思います。

私は決して部活の否定論者じゃなくて、かつて本当に価値を感じてやっていた人間です。大事だとは思いますが、やはりこれにメスを入れていかないと、本当にブラックと言われる教員の働き方が変わらないなというのは思います。

(江本委員)

僕はもう20年近く前に篠岡中学校で野球をずっとやっていて、当時ジュニアクラブ化といってジュニアクラブを立ち上げて、自分は野球は専門ではなかったのですが、やはり県大会まで行きたかったんで、甲子園の経験をお持ちの民間の人と一緒にタッグを組んで作っていきました。当時はすごく楽しかったんですが。

逆に、昨年度小牧中である部活を持ったのですが、今は民間指導者とか外部からどんどん指導者を入れています。しかし、昔は全体的にすごく熱を持って全力で部活をやっていた教員が多かったのですが、今の若い世代は部活をやりたくない、もちたくないという世代も多くなっています。そうすると、結局、お母さんお父さん方は僕らの世代と一緒になので、もっとしっかりと指導してほしい、活動してほしいということで、結局学校の部活では話にならないといって、自分たちでクラブチームを立ち上げるなど、様々な問題が起きています。

僕、野球をやっていたときに、土日に岐阜県のたくさんの中学校に練習試合に出かけたのですが、先生は誰もいなかったです。岐阜県は全部社会体育に移行して成功しているのかと思っていたら、失敗していると言われました。十何年前にやっていたことがその他の県でも失敗しているなど、たくさんの問題を抱えているので、部活動改革はしなければいけないと思うのですが、なかなかこれは難しいなと思います。僕は全部経験してきたので、自分で部活をやりながら、民間の人とも関わってきましたので、正直なところ、この現状で本当に進むのかなと心配しています。問題点は全然改善されていないどころか、新しい問題も出てきています。学校の熱量の低さに親がしびれを切らしており、こんな部活ならやらなくてもいいと思い始めているので。実際そういうことを自分自身も経験してきましたので。

若い子は逆にそれで疲弊してしまいます。50代40代の血気盛んにやっていた親御さんたちにわーっと言われると、もう完全にストレスがたまって潰れてしまう子もいるので、僕は逆にそれを支えたということもあるんですけど、計画にあるようなそんな簡単なものではないかなというのが僕の正直な気持ちです。

(委員長)

大会の運営要綱、方法ですね、まず1つは。これは小牧市だけではどうにもならない問題ですね。あとは、教員以外の地域の方を指導者として活動に入れるとなったときに、そこにも難しさがあると。では、改革は進まないのかということです。それでも一歩前進していかなければいけないものですから、どうすればいいかということは、なかなか難しいかもしれませんが、どうですか、ほかの先生方。

まず現場の中学校の声を聞いていただかないと何も進んでいけないと思いますので。

その後、有識者の方やコーディネーターの方、保護者の方、地域の代表の方にお聞きしたいと思います。そのように進めていきたいと思いますので。

どうですか、中学校の経験長い方。

(梶田委員)

江本先生が先ほど、岐阜県が失敗したという話をされましたけど、私岐阜県の人間です。自分の子供たちが岐阜県の部活動でどのように活動してきたかという、岐阜県は5時で学校は全部手を引きます。だから、学校の部活動は5時まで。5時から、完全に先生たちが手を引き、外部の指導者が来て、そこからジュニアクラブになります。

はっきり言うと、全国大会に行ったり県の常連だったりする部活がたくさんあります。でも、その裏側はどうなっているかという、運動できない子はどんどん切り捨てられていくんです。コーチから口も利いてもらえなくなり、自然にこう。能力のある子供たちだけが残っていくということもありますし。

ごめんなさい、私、教員の立場ではなくて親の立場なんですけど、コーチから言われるのは、そのクラブで起こったいじめ、もめごと等は我々は一切指導はいたしませんということを宣言される。それは保護者でやってくださいと言われるので、本当にその中での子供たちの苦しみというのは相当なものだと思います。教員は全く受け付けてくれませんし、学校に言っても、それは学校の活動ではないからと切り捨てられます。ということ自分の子供たちが経験してきて、うちの子供たちは運動能力が低いので、はっきり言うと切り捨てられました。というわけで、表立ってはものすごく成果が上がっているのですが、中で部活の充実感が得られた子がどのくらいいるかというと、やはり一部なんです。能力のある子供たちだけがということを経験してきました、親として。

愛知県の部活動というのはそうではなくて、学校の中で先生たちがいろんな子供たちの人間関係もひっくるめて指導しているので、実に温かいなというのは感じていました。自分も部活をやりながら、子供たちを指導しながら、どうしてうちの子供たちはあんなに冷たくされるんだろうと思いながら、ものすごく不条理を感じていました。

そう考えると、学校の考え方と外部の指導者の方の考え方がきちっとうまく整合性をはかれて、うまく共存できればいいんですけど、そこに考え方の差ができると、その子供たちは非常に苦しむことになるでしょうし、反対に保護者の不満が、学校が受け皿になれないということも出てくるでしょうし。そういう部分で、教員が部活動に関わらないというところを作ったときに、果たして外部の指導者との連携がうまく取れていくのだろうかというところが一番の問題になるのかなと思います。どうした

らいいという建設的な意見は言えないですけど、そのあたりがやはり一番ネックになるのかなと思います。それから、何を目的にスポーツを通じて子供たちを育てていくのかという目的意識を共有するということでも、やはり難しいところはあるのだろかなということは感じます。

(委員長)

今、大きな課題をご提案いただいたような気がします。

光中はどうでしょうかね。

(山口委員)

今のお話とつながっているのかがわかりませんが、私は未経験のスポーツの指導者になりました。光ヶ丘中学校に転勤してきたときに、バレーボールの経験はなかったのですが、バレーボールの顧問になりました。光ヶ丘中学校のバレーボール部は力が入っていて、全中を目指したり、県大会に行ったりというチームでしたので、僕は保護者の方とのコミュニケーションの中で期待されていることも感じましたし、子供たちも本当はそうに僕にやってほしいんだろかなということを感じていました。

ガイドラインの中では土日はどちらか1日は休養日となっているので、それを守って説明してきたつもりですが、子供たちは本当はもっとやってほしがっていたのではないとか、もっと遠征に連れて行ってほしかったのではないかなというところで、子供の教育的な効果を実践できない心苦しさを覚えたのを覚えています。

(委員長)

教員の側にも大きな問題というか課題があるということもお話いただいたと思います。それを聞いていただいてどう思いましたでしょうか。ご意見頂けるとありがたいですが。

(細委員)

私も今、学校の先生の立場から見ると、そういう指導をしていくのは大変だと思いますし、私も小さいときから剣道をやっていて、小学校1年生ぐらいから野外で、朝5時起きで1時間ぐらい走って、それからずっと練習してきて。三重県だったのですが、三重県では中学校になったときには3位ぐらいまで、要するに賞をもらって、個人戦でもそうやって頑張ってきましたけど、やっぱり個人の指導と団体戦の指導では先生方の立場も違うかなという気もするんですね。個人ではその人とマンツーマンでできるけれど、やはり団体戦でいくと、まず、そこについていけない人が来るとやはりチームというのは難しいかもしれないので。

確かに、今お話を聞いていると、学校の先生の立場と保護者の立場で、それをどうコントロールしていくかというのは難しいと私も思いますから、先生たちが外部に委

託をしていくこともこれからはもっと増えてくるような気はするんですね。学校の教育の立場と、またさらにクラブ活動で、先生たちが今おっしゃったように、全然経験がないのに顧問をさせられたとかそういう問題も絡んでくるから、これからは学校の先生たちよりも、外部の顧問をさらに増やしていく方向が私もいいのではないかなと思いました。

こういう難しい問題に私らが参加してもなかなか発言ができませんけど。

雑駁な意見だったかも知れませんが、そういうようには思います。

(委員長)

ありがとうございます。

地域の方で運動を指導してみえることがあった立場から、御経験からのお話を頂いております。ありがとうございます。

保護者の方はよろしいでしょうか。教員のほうはそういうことだということで話がありましたが、何か思ってみえることがありましたら、せっかくおみえになっすのでお願いいたします。

(石川委員)

今年40歳なんですけど、小中学生のときの部活は苛烈だったなという記憶があります。部活動改革というお話を伺って、ああそういうふうなんだなとびっくりしています。あと、もともと競技に携わらない先生が顧問になることは当然あるでしょうから、例えばひ弱だったお子さんが部活に入って市の1位を目指して人間的に成長していく姿もあるのかもしれませんが、部活がもともと1番になるのを目指すのがゴールでないのだとしたら、別に1番になることは目指しておりませんと宣言してもいいような気はします。子供だった自分としても、指導してもらっている先生としても、その充実感とか成長は経験的には確かだと思います。しかし、何をもって部活は絶対必要なものだとなっているのだらうと、今聞いていました。美しい記憶はあります。

(委員長)

部活を通して子供を育てるというのは間違いないことなんですね。そこに教員の多忙化解消ということがあるものですから、なかなか難しい問題。指導者として地域と教員が本当は連携をして上手にすみ分けてやれるといいのですが、なかなか大きな課題はあるということですね。

どうでしょうか。今日ご発言をしていただけていない方もおみえになりますが、せっかく来ていただきましたので。

(光部委員)

私も年代的に、自分自身が中学生のときは本当に盆正月がないような、朝から晩ま

でやっているような状態でしたけれども、実際に子供が同じようにスポーツをやり始めると、朝から晩まで付き合うのはとても大変だという、親の立場から見て大変だなというのは感じています。一方で、やってくれるならぜひ行ってきなさいというように、先生方にはお願いしたいという気持ちもとても強かったことが思い出されます。今、みんな20歳過ぎましたけれども、一生懸命やっていた覚えがあります。

ただ、私は子供3人おまして、3人ともが違うスポーツをやっていたものですから、それぞれに付き合うというのもある意味大変ではありましたが、応援したい気持ちもちろんありますが、でも、なかなか大変なところもあるというところがあって先生方と同じで、それでも勝ってほしいという気持ちもありました。でも、休んでほしいという気持ちもあるということで、とても揺れ動いていた時期だと思います。母親としてはとても揺れ動いておりました。

ただ、今回、この指導者についてという2項目の2つ目の丸ですが、民間指導者が顧問と一緒に指導しているということですが、この指導の方針が違っていると、それはそれでチームがうまくまとまらないとか、チームプレーなんか特にですけどまとまらないと思いますし。それから、もっとやりたいという先生と、1番ばかりを目指す指導者の考えと、みんなで一緒に頑張ろうという考えが違っていると、指導に対してぶれが出てきて、子供たちにもかなり苦しいことになり、そしてさらにはそこに関わっている指導者の方、顧問の方の努力がちょっともったいないなと感じています。

協力し合うということはもちろんですけど、考え方をやっぱり1つにしていなければいいなと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

ご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

非常に難しい問題をはらんでおり、今回運動部だけのことが話題になりましたが、文化部もあるわけなんです。どうしていくのかということです。そちらのほうも本当に大きな課題、どう進めていくのかなということで、この会でそれについて提言していくということではないので、まず課題や問題を出していただくということがありまして、これをもとにまた別のところでご検討いただくということだと思います。

言い足らなかった方はみえますか、部活のことに関して。よろしかったですか。いいですか。

それでは、時間がちょうど1時間を過ぎてきましたので、ここで(2)の中学校の部活動につきましの検討につきましては、今後事務局で検討いただいて、次回の推進委員会に提示していただければありがたいなと思っております。

よろしくお願いいたします。

(3) その他

(委員長)

続きまして、(3) その他につきまして、事務局よりお願いしたいと思います。

(事務局)

皆様、熱心なご討議ありがとうございました。

頂いたご意見につきましては、今後事務局でも検討させていただき、次回の推進委員会で委員の皆様に提示できるところはしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次回の第2回推進委員会についてですが、今のところ、昨年と同じく12月を予定しております。確定をしましたら、皆様には正式に連絡を差し上げたいと考えております。小牧市役所の本庁舎で開催したいと考えております。開催日が決定しましたところで連絡を差し上げますので、お忙しいところ恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

以上です。

(委員長)

ありがとうございます。

繰り返すかもしれませんが、事務局の方につきましては、委員の意見を参考にしていただいて、これからの調整をお願いしたいと思います。

それでは、私に与えられました議事の司会につきましてはこれで終了させていただきますので、事務局にお返ししたいと思います。

(事務局)

長時間にわたるご審議どうもありがとうございました。

これをもちまして第1回小牧市教員の多忙化解消推進委員会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。